

悲しみは喜びに変わる

(創世記 18 章 23-33 節 ヨハネによる福音書 16 章 12-24 節)

2022 年 5 月 22 日 主日礼拝

日本基督教団仙川教会

大串肇牧師

しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなる…。 (ヨハ 16:16a)

このイエスの一言で衝撃が走ったに違いありません。弟子たちはうろたえました。そしてひどく混乱しました。これはヨハネ福音書が記しています、十字架の直前の様子です。あれほど堅いと思われていた弟子たちの絆が今や崩れ去ろうとしていました。「いったい何のことだろう」。弟子たちは口々に問いました。自分たちの指導者であるイエスがいなくなる。その意味をほんとうに理解する者はこの時はいなかったのです。

この箇所は有名なイエスの告別の説教です。イエスの言葉に弟子たちの心は大きく揺るがされました。イエスの死が迫ってきています。いよいよ現実のことになったのです。何度も繰り返し、イエスは自分の十字架に付いてお語りになりました。ところが、「見えなくなる」と言われて、ほんとうに弟子たちは困惑しました。

イエスは死を覚悟しているのではないかと弟子たちは感じました。なぜ自分たちを置き去りにしていくのかわからない。そういう不安を感じたはずですが。愛する者を失う悲しみはもちろんです。主キリストを信じること自体に、絶望や不安を抱いていたのではないのでしょうか。それはヨハネ福音書の読者である教会にとりまして、会堂追放など厳しい時代にあったヨハネの共同体の姿が重ねられています。愛する者たちが目の前で捕らえられ殺されていく。「しばらくすると見えなくなる」。それは差し迫る自分たちの終わりをも重ねてみていたのではないのでしょうか。

ところが、イエスは静かに語りだしました。「またしばらくすると、わたしを見るようになる」(16 節 b)。この謎めいたイエスの言葉を弟子たちはついに理解できませんでした。しかし、イエスの十字架と復活を経験して初めて、彼らはこの言葉が真実であったことを悟るのです。イエスは尚も語りました。

はっきり言うておく。あなたがたは泣いて悲嘆に暮れるが、世は喜ぶ。あ

あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる。(20 節)

ここには二つの喜びが対立しながら記されています。一方は「この世の喜び」です。この世とは、「世間一般」を意味しません。キリストを否定し、攻撃するもろもろの反キリスト勢力をヨハネ福音書は「この世」と呼びました。ですから、この世の喜びとは、偽りであり、うわべだけであり、滅びなのです。キリストの十字架を認めず、神の愛を否定する闇の世界です。

他方、弟子たちはどうでしょうか。イエスが亡くなられたとき、彼らは絶望し、深く悲しみました。イエスはそのことを敢えて予告します。しかし、その悲しみや苦しみはそのままでは終わらなかったのです。イエスは復活しました。罪と死に勝利され、天に凱旋されたのです。その喜びに弟子たちは与ることが出来るのです。イエスは最後に譬えを用いて、イエスが与えてくださる「喜び」について弟子たちに語っています。

女は子供を産むとき、苦しむものだ。自分の時が来たからである。しかし、子供が生まれると、一人の人間が世に生まれ出た喜びのために、もはやその苦痛を思い出さない。(21 節)

弟子たちがこれから直面する十字架は何と産みの苦しみであると言うのです。陣痛は軽いことだといっているのではなく、大変な苦しみです。でも、その苦しみは命を授かる、大きな喜びに連なっている。そういう希望をイエスはお語りになったのです。徒労じゃない。犬死じゃないのです。イエスに従いながらも、神が見えない、そういう孤独の中にただただ不安になっている。そういう苦しみを産みの苦しみととらえて、励ましてくださっているのです。十字架によってイエスを失った悲しみに打ちひしがれた弟子たちに復活したイエスが臨まれたとき、大きな喜びに包まれたのでしょうか。

しかし皆さん、このお話は決して昔のお話ではないのです。イエスが蘇ったというのは、イエスが今も尚わたしたちと共に生きている、そういうことなのです。弟子たちが体験した「喜び」まさに「その悲しみは喜びに変わる」そういう奇跡をわたしたちも今経験することができるのです。

イエスを信じ、イエスと共に生きる。それをヨハネ福音書の言葉を借りて一言で言い表すとすれば「喜び」です。その喜びは誰もわたしたちから奪い取りことはできません。

ところで、今はあなたがたも、悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなたがたと会い、あなたがたは心から喜ぶことになる。その喜びをあなたが

だから奪い去る者はいない。(22 節)

この世の喜びは、いつかは消え失せてしまうでしょう。それにあまりにも執着しているとわたしたちは悲しみや絶望から立ち直れません。でも、ほんものの喜びがあるのです。イエス・キリストを通して与えられるまことの喜びはまさに祈りを通して与えられます。

はっきり言うておく。あなたがたがわたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。今までは、あなたがたはわたしの名によっては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。(23-24 節)

「しばらくしてわたしは帰ってくる」。そうおっしゃったイエス・キリストは、今や既にわたしたちのもとに、この祈りと礼拝の時にこのわたしたちの只中に、来てくださっています。こうして悲しみは喜びに変わるのです。お祈りしましょう。